

生活行為分析から見た居室の使われ方に関する研究

その2 住戸規模の違いから見た居室の使われ方について

中 島 一・松 本 壮一郎

Study on the Way of Using the Living Space by Analyzing of Life Behavior Part II

Hajimu NAKAJIMA and Soichiro MATSUMOTO

The housing supply has been planned a turnabout from the quantity to quality.
we researched the life behavior in the living space and aimed at the rational life and the classification of the living style.

This is the basic study which seek for the settlement of the new housing and living notion.

1. はじめに

我国における住宅、特に集合住宅の供給施策は、量から質への時代に移ったと言われ、70~100m²と言った住戸規模の大きいものが供給され、また、その供給方法もベアー住宅や一団地2戸貸制度などを始め、分譲集合住宅ではメニュー方式とか、コーポラティブ方式などといった居住者の要求を積極的に組み入れるものも見られるようになった。

しかし、多くの集合住宅居住者にとっては、立地・質・住居費等の相互評価を行ない、相対的な評価のなかから一つの住居を選び、不本意な住み替えにより、希望の住居に出来るだけ接近しようとしているのが現状である。

そこで、本研究は、与えられた住空間に生活を対応させなければならない集合住宅居住者の住戸内外で行なわれる様々な生活行為を調査・分析し、これまでの居室の広さ、居室の数で進められた住戸の評価を、居室で行なわれる生活行為と生活行為の組み合わせから評価する方法を探り、家族を含めた生活の発展経過と共に変化する生活行為に対応できる今後の集合住宅、特に住戸計画のあり方を求める一連の基礎的な調査・研究である。

今回は、先に報告した小規模住戸(2K~3K)を対象とした"生活行為分析から見た居室の使われ方に関する研究その1"¹⁾と比較的規模の大きい住戸(3DK~4LDK)を対象とした"住まい方に関する実態調査その3"²⁾に引き続くもので、2K~4LDK型住戸を対象に、各居室で行なわれる生活行為を住戸規模の違いから

表1 調査票の配布数と調査対象家族の属性 (戸・%)

住戸タイプ	2K	2DK	2LDK	3K	3DK	3LDK	4K	4DK	4LDK	合計	
配布団地名	星ヶ丘	藤山台	藤山台	藤山台	藤山台	千代が丘	星ヶ丘	(民間)	千代が丘		
配布数	40	40	40	40	40	40	36	14	36	326	
回収数	35	35	39	36	38	37	32	12	33	297	
回収率	87.5	87.5	97.5	90.0	95.0	92.5	88.9	85.7	91.7	99.1	
家族数	2人以下	12 34.3	8 22.9	7 17.9	6 16.7	5 13.2	3 8.1	5 15.6	3 25.0	2 6.1	51 17.2
	3人	8 22.9	15 42.9	16 41.0	4 11.1	9 23.7	3 8.1	7 21.9	2 16.7	4 12.1	68 22.9
	4人	11 31.4	9 25.7	15 38.5	24 66.7	19 50.0	13 35.1	14 43.8	7 58.3	16 48.5	128 43.1
	5人以上	3 8.6	1 2.9	1 2.6	2 5.6	5 13.2	11 29.7	3 9.4	0 0.0	11 33.3	37 12.5
	不明	1 2.9	2 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 18.9	3 9.4	0 0.0	0 0.0	13 4.4
居住年数	1年未満	2 5.7	0 0.0	8 20.5	3 8.3	3 7.9	3 8.1	0 0.0	5 41.7	18 54.5	42 14.1
	1年から3年未満	7 20.0	9 25.7	8 20.5	4 11.1	7 18.4	20 54.1	6 18.8	7 58.3	13 39.4	81 27.3
	3年から5年未満	5 14.3	10 28.6	9 23.1	5 13.9	8 21.1	8 21.6	2 6.3	0 0.0	0 0.0	47 15.8
	5年以上	20 57.1	15 42.9	13 33.3	24 66.7	20 52.6	0 0.0	22 68.8	0 0.0	0 0.0	114 38.4
	不明	1 2.9	1 2.9	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.3	0 0.0	2 6.1	7 2.4

分析・考察を行なったものである。

2. 調査方法と調査対象住戸の概要

調査は、住宅・都市整備公団の中層耐火構造の賃貸集合住宅を中心に、住戸タイプ2K・2DK・2LDK・3K・3DK・3LDK・4K・4DK(民間)、4LDKの9タイプ、326戸を対象とした。調査の方法は、質問紙調査法(留置法)を採用、質問回答者を主婦とした。調査対象団地、調査票の配布数・回収数・回収率・調査対象家

族の概要を表1に示した。

調査対象家族の家族型は、全対象家族の87.9%が夫婦家族であるが、回答者(主婦)の年令、長子の年令を見ると2K~3DKの住戸に住むものは、比較的若い家族型、3LDK~4LDKの住戸に住むものは、比較的成長した(長子が小学校以上)家族型が多く見られた。

なお、調査に使用した生活行為は、表3に示すとおり、各居室で行なわれている生活行為を代表的行為で求めるのではなく、現状に近い形で把握出来る様、「就寝する」、「食事をする」、「調理をする」、「団らんをする・くつろぐ」

「勉強をする」、「客と応対する」、「客を泊める」、「身だしなみを整える」、「家事・育児をする」、「余暇を過ごす」、「物を置く」の生活行為を更に53項目に分類した。

3. 調査結果と考察

3.1 各居室で行なわれる生活行為について

各居室で行なわれる生活行為については、すでに報告したとおりである。

図1は各居室で行なわれる生活行為の内、対象住戸の60%以上の住戸で行なわれている生活行為を抽出し、列

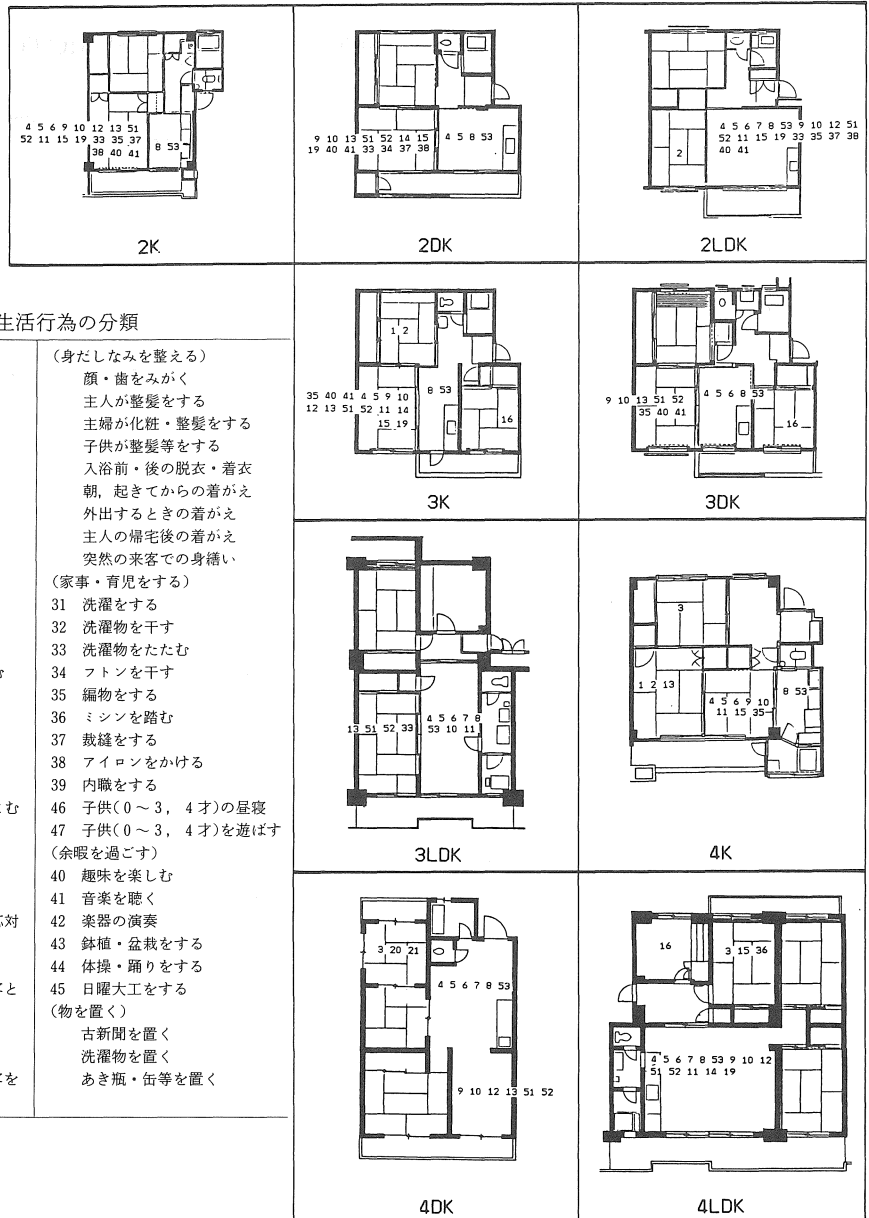


表2 生活行為の分類

(就寝する)	(身だしなみを整える)
1 主人が就寝する	顔・歯をみがく
2 主婦が就寝する	主人が整髪をする
3 子供が就寝する	主婦が化粧・整髪をする
(食事をする)	子供が整髪等をする
4 朝食をとる	入浴前・後の脱衣・着衣
5 昼食をとる	朝、起きてからの着がえ
6 夕食をとる	外出するときの着がえ
7 夜食をとる	主人の帰宅後の着がえ
(調理をする)	突然の来客での身繕い
8 料理の盛付をする	(家事・育児をする)
53 炊事・調理をする	31 洗濯をする
(団らんをする・くつろぐ)	32 洗濯物を干す
9 団らんをする	33 洗濯物をたたむ
10 新聞・雑誌等を気軽によむ	34 フトンを干す
12 1人酒を飲む	35 編物をする
13 昼寝・ごろねをする	36 ミシンを踏む
51 ちょっとした催し物	37 裁縫をする
52 テレビを見る	38 アイロンをかける
(勉強をする)	39 内職をする
11 家計簿・雑誌等を気軽によむ	46 子供(0~3, 4才)の昼寝
14 主人が勉強する	47 子供(0~3, 4才)を遊ばす
15 主婦が勉強する	(余暇を過ごす)
16 子供が勉強する・遊ぶ	40 趣味を楽しむ
(客と応対する)	41 音楽を聴く
17 セールス・御用聞き等と応対する	42 楽器の演奏
18 突然の来客と応対する	43 鉢植・盆栽をする
19 前もってわかっている来客と応対する	44 体操・踊りをする
(客を泊める)	45 日曜大工をする
20 突然の来客を泊める	(物を置く)
21 前もってわかっている来客を泊める	古新聞を置く
	洗濯物を置く
	あき瓶・缶等を置く

図1 6割以上の住戸で行なわれている居室の生活行為

記したものである。

各住戸型とも、K, DK, LDK 室から離れた和室では、夫婦の就寝や子供の就寝・勉強・身だしなみを整えるなどのプライベートな行為が行なわれている。

また、家族が共有して使用する居室の使われ方は、共同室を持たない K, DK 型の住戸では団らん・くつろぎを始め、夫婦の勉強、客との応対、家事・育児などの生活行為を K, DK 室に隣接する和室で行ない、家族の共同室を持つ LDK 型の住戸では、食事、団らん・くつろぐ、家事・育児などの生活行為を LDK 室で行なう傾向が見られた。

各住戸型別に見て、特記すべきこととしては、住戸規模の小さい 2 K・2 DK 型での K, DK 室に隣接した和室での生活行為の集中が他の住戸より大きいこと。LDK 室が比較的他の住戸型より大きい 3 LDK 型の住戸では、LDK 室で家族の団らんを行ない。その行為に関連するテレビやごろ寝のくつろぎ、家事を隣接する和室で行なう傾向が見られた。又、DK 室に隣接する居室を 3 室持つ 4 DK 型の住戸では、客の応対、夫婦の勉強、家事・育児等において居住者の好みによる居室の使われ方が窺えた。反面 LDK 室に隣接した居室を持たない 4 LDK 型の住戸では、団らん・くつろぐ、客との応対など家族共通の行為を LDK 室 1 室で行なう傾向が見られた。

各居室で行なわれる生活行為の数については、K, DK 型では K・DK 室に隣接する和室で、LDK 型では LDK 室で一番多くの生活行為が行なわれ、他の居室の 1.5~2 倍の生活行為が行なわれており、この居室が日常生活の中心となる居室であることが分かる。更に、これを住戸規模との関係から見ると、2 K, 2 LDK 型の平均 7.2 個から 4 K 型 5.1 個、4 DK 型 4.8 個と住戸規模が大きくなるにつれ生活行為が減少する傾向(但し 4 LDK 型では、6.5 個と増加)が見られ、居室数の増加による生活行為の分散がはかられたためと考えられる。

また、調査対象住戸の 60% 以上の住戸で行なわれている生活行為においても、住戸規模が大きくなる程、抽出行為が増加し、各居室への生活行為の分散や、各居室の使われ方の法則性が窺える。しかし、反面、住居規模の増加が各居室の使われ方に画一化を計っていることにもなり、更に詳細な分析が必要と思われる。

表 2 は、同室で行なわれる生活行為の相互関係(行為ごとに同室で行なわれる比率)を見たものである。2 K~3 K 型の結果は「* 1」に掲載した。

この表から当然のことではあるが、住居規模が小さくなるにつれ各生活行為が同室で行なわれる比率が高くなる傾向が分かる。また、LDK 室において同室で行なわれる比率が高いのは、食事、調理、団らんを中心に LDK 室

表 3 同室における生活行為の相互関係 (戸・%)

3DK	就寝する	食事を する	調理を する	団らんを する	くつろぐ	勉強を する	客と 応対する	客を 泊める	身だし なみを 整える	家事・ 育児を する	余暇を 過ごす
3DK											
就寝する	5	0	24	41	10	17	45	26	24	24	24
	7.8	0.0	37.5	64.1	15.6	26.6	70.3	40.6	37.5	37.5	37.5
食事を する	3	29	32	24	9	5	11	22	16	16	16
	3.9	65.9	72.7	54.5	20.5	11.4	25.0	50.0	36.4	36.4	36.4
調理を する	1	34	19	11	2	0	2	11	5	5	5
	1.3	94.4	50.0	28.9	5.3	0.0	5.3	28.9	13.2	13.2	13.2
団らんを する	39	34	33	45	24	17	31	41	36	36	36
	51.3	94.4	94.3	65.2	34.8	24.6	44.9	59.4	52.2	52.2	52.2
勉強を する	44	30	29	62	22	22	44	48	41	41	41
	57.9	83.3	82.9	72.1	27.5	27.5	55.0	60.0	51.3	51.3	51.3
客と 応対する	10	19	19	30	24	11	15	23	22	22	22
	13.2	52.8	54.3	34.9	26.1	14.0	20.0	30.0	28.0	28.0	28.0
客を 泊める	20	2	1	23	24	6	21	23	21	21	21
	26.3	5.6	2.9	26.7	26.1	17.1	58.3	63.9	58.3	58.3	58.3
身だし なみを 整える	49	13	12	49	46	18	21	36	28	28	28
	64.5	36.1	34.3	57.0	50.0	51.4	61.8	54.5	42.4	42.4	42.4
家事・ 育児を する	33	22	20	55	46	19	21	37	39	39	39
	43.4	61.1	57.1	64.0	50.0	54.3	61.8	49.3	61.9	61.9	61.9
余暇を 過ごす	26	24	23	46	49	23	18	30	42	42	42
	34.2	66.7	65.7	53.5	53.3	65.7	52.9	40.0	59.2	59.2	59.2

4K	就寝する	食事を する	調理を する	団らんを する	くつろぐ	勉強を する	客と 応対する	客を 泊める	身だし なみを 整える	家事・ 育児を する	余暇を 過ごす
4K											
就寝する	9	1	33	41	16	22	45	33	34	34	34
	14.3	1.6	52.4	65.1	25.4	34.9	71.4	52.4	54.0	54.0	54.0
食事を する	0	11	35	31	21	3	18	29	18	18	18
	0.0	28.2	89.7	79.5	53.8	7.7	46.2	74.4	46.2	46.2	46.2
調理を する	0	12	12	9	5	0	16	6	4	4	4
	0.0	85.7	30.8	23.1	12.8	0.0	41.0	15.4	10.3	10.3	10.3
団らんを する	7	5	3	48	29	14	41	50	33	33	33
	35.0	35.7	25.0	266.7	166.1	77.8	227.8	277.8	183.3	183.3	183.3
勉強を する	10	5	3	17	30	16	44	43	47	47	47
	50.0	35.7	25.0	73.9	37.0	19.8	54.3	53.1	58.0	58.0	58.0
客と 応対する	1	5	3	12	13	6	15	24	23	23	23
	5.0	35.7	25.0	52.2	40.6	14.3	35.7	57.1	54.8	54.8	54.8
客を 泊める	5	0	0	5	9	1	21	13	45	45	45
	25.0	0.0	0.0	21.7	28.1	6.7	77.8	48.1	166.7	166.7	166.7
身だし なみを 整える	17	1	0	9	17	3	8	42	31	31	31
	85.0	7.1	0.0	39.1	53.1	20.0	61.5	21.3	62.5	62.5	62.5
家事・ 育児を する	13	2	0	11	17	7	5	16	36	36	36
	65.0	14.3	0.0	47.8	53.1	46.7	38.5	55.2	58.1	58.1	58.1
余暇を 過ごす	8	3	1	14	19	10	5	12	15	15	15
	40.0	21.4	8.3	60.9	59.4	66.7	38.5	41.4	55.6	55.6	55.6

4LDK	就寝する	食事を する	調理を する	団らんを する	くつろぐ	勉強を する	客と 応対する	客を 泊める	身だし なみを 整える	家事・ 育児を する	余暇を 過ごす
2K~ 4LDK											
就寝する	4	1	35	55	1	13	52	29	20	20	20
	4.7	1.2	41.2	64.7	1.2	15.3	61.2	34.1	23.5	23.5	23.5
食事を する	67	31	33	32	23	2	7	28	28	28	28
	12.6	83.8	89.2	86.5	62.2	5.4	18.9	75.7	75.7	75.7	75.7
調理を する	7	206	32	30	27	1	4	28	30	30	30
	1.3	60.9	91.4	85.7	77.1	2.9	11.4	80.0	85.7	85.7	85.7
団らんを する	244	272	158	59	29	16	33	51	44	44	44
	46.0	80.5	51.8	73.8	36.3	20.0	41.3	63.8	55.0	55.0	55.0
勉強を する	332	257	142	411	26	21	45	54	51	51	51
	62.6	76.0	46.6	81.5	24.5	19.8	42.5	50.9	48.1	48.1	48.1
客と 応対する	84	169	92	243	233	2	2	24	26	26	26
	15.8	50.0	30.2	48.2	35.1	6.9	6.9	82.8	89.7	89.7	89.7
客を 泊める	149	44	6	141	239	71	19	18	13	13	13
	28.1	13.0	2.0	28.0	36.0	26.3	55.9	52.9	38.2	38.2	38.2
身だし なみを 整える	355	126	66	300	355	129	177	35	21	21	21
	67.0	37.3	21.6	59.5	53.5	47.8	63.2	47.3	28.4	28.4	28.4
家事・ 育児を する	272	227	113	388	411	212	181	343	37	37	37
	51.3	67.2	37.0	77.0	61.9	78.5	64.6	49.1	47.4	47.4	47.4
余暇を 過ごす	201	196	107	324	373	213	148	240	331	331	331
	37.9	58.0	35.1	64.3	56.2	78.9	52.9	34.3	58.0	58.0	58.0

に生活行為が集中するためと考えられる。

また、個々の生活行為の相互関係を見ると、「団らんをする・くつろぐ」の行為では、「食事をする」「勉強をする」「家事・育児をする」の行為との同室使用が多く、団らんが日常生活の中心になっている様子がうかがえる。反面、「客を泊める」の行為は「身だしなみを整える」「家事・育児をする」「余暇を過ごす」の行為との同室使用が多く、日常生活の中心になる部屋の使用が少ないことが分かる。

3.2 主要生活行為から見た居室の使われ方について

図2. 3は、表3の53項目の生活行為より「主人が就寝する」「主婦が就寝する」「子供が就寝する」「夕食をとる」「炊事・調理をする」「団らんをする」「前もってわかっている来客と応対する」の主要な生活行為を選び、その行為とそれに関連する生活行為をつないで居室の使われ方を見たものである。

図2は、住戸タイプ別に見た主要生活行為の居室専用利用の有無を見たものである。これによると、空部屋のない「全居室の利用用途が明らかな住戸」の方が空部屋

のある「居室の利用用途が明らかな居室がある住戸」より「準専用利用しかない住戸（主要生活行為1つと他の主要生活行為の関連行為で利用）」「1室で専用利用がある住戸（主要生活行為1つとその関連行為で利用）」が多く、主要生活行為の確保のため空部屋がなくなったとも思われるが、LDK室を持つ住戸型や住戸規模が大きい4DK型、特に2LDK型の住戸の様に、空部屋があるにもかかわらず、主要生活行為に居室の専用を行っていないケース（21例中14例）があることから、前項で触れた共同室の存在と居室数の増加による生活行為の分散によるものと考えられ、各居室を用途による使い分けでなく、時間的なずれを考慮した使い分けを計っている様子が窺え注目したい。

図3は、主要な生活行為と、それに関連する生活行為をつないで居室の使われ方を見たものである。居室の使われ方を就寝行為を中心に「1室集中型」「分離型」「準分離型」「分散型」に分類した。これによると、住戸規模の小さい住戸では分離、住戸規模の大きい住戸では分散の傾向が見られた。

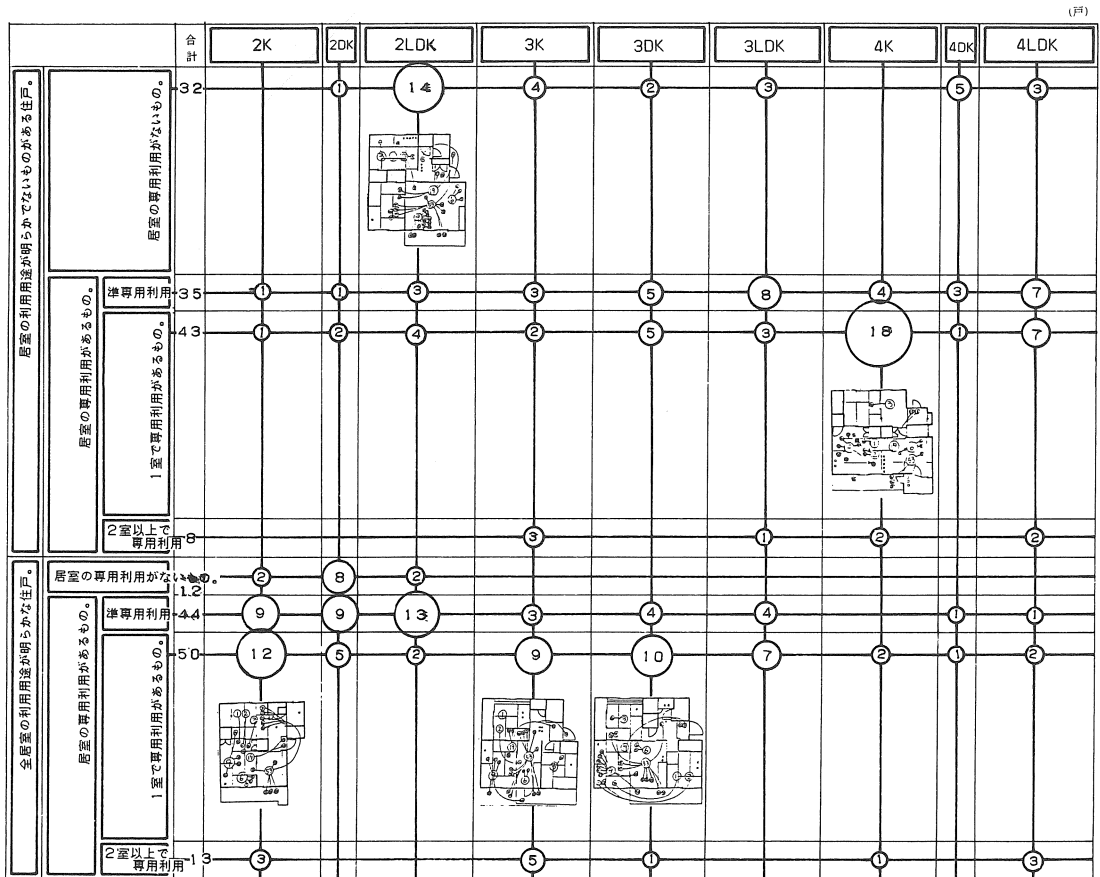


図2 主要な生活行為による居室の専用利用について（図中番号は表3を参照）

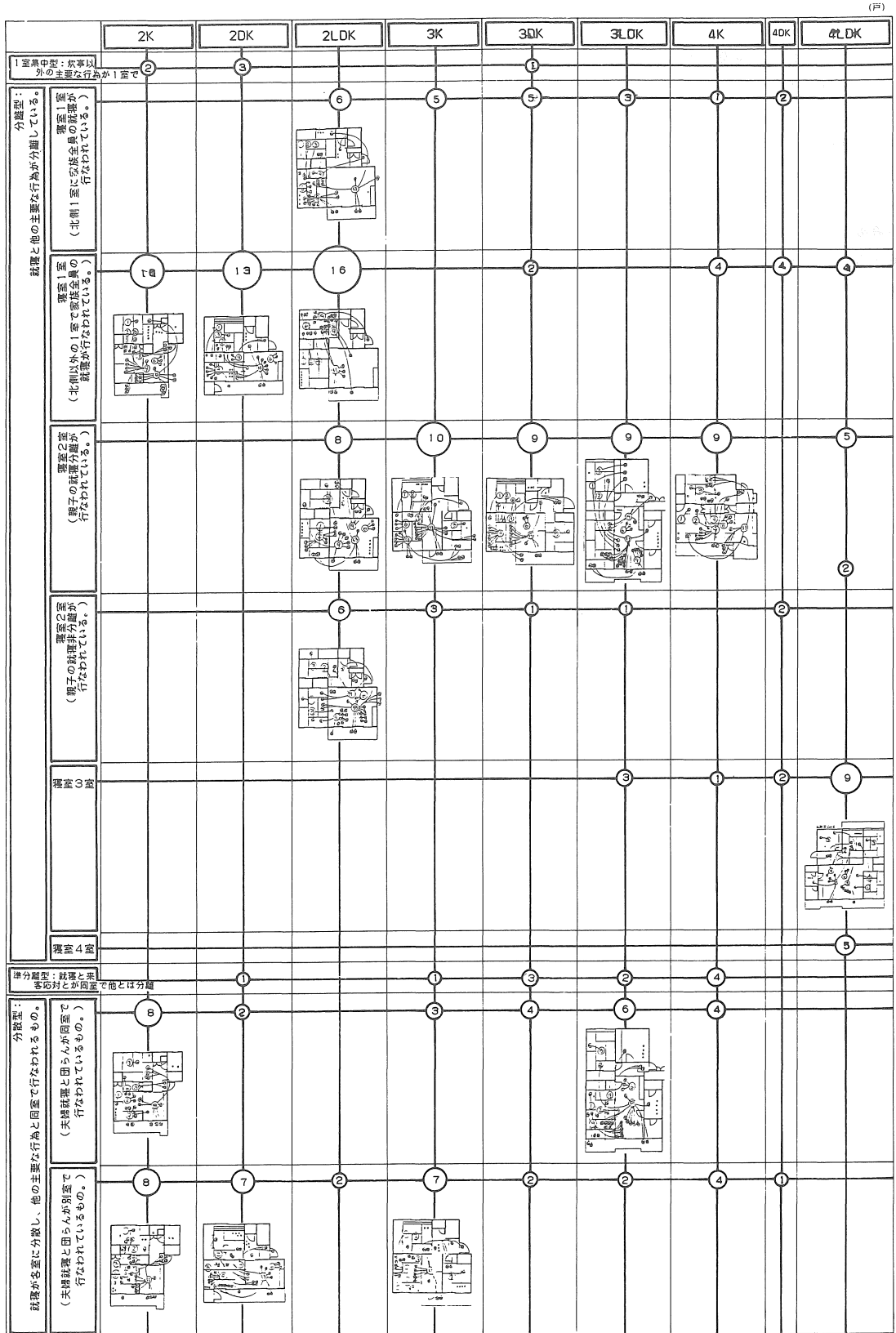


図3 就寝行為から見た居室の使い方（图中番号は表3を参照）

4. おわりに

以上のことから、規模の小さい住戸では、1室に多くの生活行為が集中する反面、比較的規模の大きい集合住宅においては、生活行為が各居室に分散し、各居室の用途を不明確にしており、生活の中心となる行為と、その行為のあり方に注意を払う必要があり、主要な生活行為を中心とした独立室をもち、更にL室またはK・DK室が隣接した居室には、“団らん”を始め多くの生活行為が集まるため、多目的に使用出来る、いわゆる使用目的を限定しない居室を配慮する必要があると考えられる。

今後は、更に、居室の類型化のあり方、意義を検討し報告したい。

注

- * 1. 中島一・松本壮一郎 愛知工業大学研究報告集 No.17 (1982) 生活行為分析から見た居室の使われ方に関する研究 その1。
- * 2. 中島一・松本壮一郎 日本建築学会東海支部研究報告 (昭和58年2月) 住まい方に関する実態調査 その3。

(受理 昭和58年1月16日)